

学びをひろげる

(第34回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2020年9月19日(土) (1時45分~5時)
場所 城東区民センター4階 小会議室
〒536-8510 大阪市城東区中央3-5-45 Tel.06-6932-2000
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。



地下鉄「長堀鶴見緑線・今里筋線」浦生四丁目駅 1番・7番出口 徒歩約5分

京阪電鉄 野江駅 徒歩約8分

前回 第33回の内容

「書く」ということ~生活つくり方にとりくんで~

寝屋川市立小学校教員 森本加代さん 7月18日提案

1年生の子どもたちと取り組んだ「生活つくり方」の実践を報告してくださいました。つくり方を軸にして子どもたちが関わり合い、先生も巻き込んで学び合うことによって、ひとりひとりの子どもが変わり、教師が揺さぶられ、教室が変わって行くすばらしい取り組みでした。意見交流で焦点化したひとつの話題を紹介しておきます。

「生活つくり方」の実践報告では、よく「方法化」の是非について意見が交わされます(松森の経験的な感想ですが)。「子どもたちの思いを自由に書かせるといいながら、事細かなところにまで教師の目を行き届かせ、指導している」のではないか。なかでも、「推敲(すいこう)」という「方法」について、大きな議論が持ち上がります。森本学級のAくんは中々クラスになじめなかったのですが、先生と対話しながら「お話ノート」を書き続けて、「書きたい気持ち」が生まれ、わからない文字を友だちにも聞き、ひらがなを獲得しながら、同時に友だちとのかかわりをつくって行きました。

そのAくんが、夏休みを終えて2学期に登校してくると、言葉遣いも周囲への当たり方も、きつくなり授業中に先生をにらみつけるような態度も見せるようになっていました。1か月余りクラスで様々な出来事が起こるのですが、やがてAくんが家のこと、母親のことをつくり方に書き始めます。そのときに、Aくんと先生が二人で向かい合って、「思い出し直し・推敲」に取り組みました。時間をかけて、何があったのか、どう言ったのか、何をしたのか…、じっくりじっくりと対話をしながら、文章を書きなおして行きます。取り組みながら、Aくんは居場所を見つけ、クラス集団はお互いを認め合い支え合う集団へとさらに関係を深めて行きました。しかしまさにここで、教師の出すぎではないか、子どもの自由を奪っているのではないか、子どもの言葉というより、教師の意見が優先されているのでは、確かに「感動的な」すばらしい文章が生まれるが本当に子ども自身が書いたといえるのだろうか…等々、多くの意見が交わされることとなります。

“学びの会”でもその「方法」が話題になったのですが、そのとき参加していた障害当事者であるSさんが知的障害者施設「やまゆり園」で起こった「虐殺事件」に言及しながら発言しました。——「犯人の植松聖は小学校時代から、近くに障害者がいる環境だったらしい。低学年のときに『障害者なんかいらぬ』という作文を書いたそうだが、いつも書いてくれた先生からのコメントは何もなかった。もし、その時、先生がいつも通りの、何らかのコメントを書き、彼と話し合う機会があったなら・・・」と、湧き上がる感情を抑えきれずに、言葉をつまらせながら、つよい口調で話されました。

夏休み明けに暴力的な言動が目立ち、やがてクラスの居場所を失いかけていたAくんと森本先生が、つくり方を間に挟んで向かい合い語り合ったように、植松少年と担任がふたりで「その作文」をはさんで向かい合い語り合うことがあったなら、その時どんなつくり方が生まれていただろうか。教室の中で、みんなで植松少年の「思い」について率直に話し合う機会がもたれていたなら、どうなっていたらどうかと、話し合いました。生活つくり方、あるいは「書く」ということを今後の議論につなげていきたいと思えます。

今回 第34回は

初めてのZoomを使った研修会

松森が新しい本を出版しました。『街角の共育学~無関心でない、あきらめない、他人まかせにしないために~』現代書館。スタッフの松井さんが、本から3~4個の課題を柱立てして、松森に質問し、質疑応答を交わします。その二人の対話を軸にして、参加者で交流する。そんな流れを構想しています。松井さんは、質問内容を明かしてくれません。きっと、松井さんらしい生活経験や授業実践、子どもや教員の具体的な姿を通じた質問で、「ともに学び、ともに生きる」ことの意味を鋭く問いかけてくることと思えます。緊張しながら、興味津々で楽しみにしています。

「学びをひろげる」スタッフ 松井 直哉、 松森 俊尚

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☞✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

★次回第35回研究会は、2020年11月21日(土)午後1時45分~城東区民センター4階中会議室にて★